

2017年9月15日

## 70周年記念式典・祝賀会開会挨拶

本日は京華産業 70 周年記念式典・祝賀会にご多忙中のところ、また遠方よりご出席賜り誠にありがとうございます。

今日のこの日を迎えることができましたのもご臨席のお取引各社をはじめ、数多くのお取引先の永年に亘るご愛顧とご支援の賜物と存じます。ここにあらためまして厚く御礼申し上げます。

また、幾多の困難を乗り越え、今日の基盤を築かれました諸先輩のご苦勞、ご功績にあらためて敬意の念と感謝の意を表します。

そして、諸先輩の遺された基盤を引き継ぎ、今日まで発展させてくれた社員の皆さんの日頃の努力に対し心より感謝いたします。

当社は、1947年（昭和 22 年）9 月、旧三井物産京都支店の有志が集い、資本金 19 万 5 千円で設立されました。社名の京華（けいか）には、「京（みやこ）に華（はな）を咲かせる」という創業メンバーの熱い思いがこめられていました。旧三井物産は、連合軍総司令部からの解散命令を受けて、220 数社の新会社に分かれ再出発しましたが、当社もこの内の 1 社でありました。その後、これらの新会社は吸収、合併を重ね、1959 年（昭和 34 年）に、今日の三井物産が形作られました。当社は、この合併、合同に加わらず、第一物産から 50% の出資を受け、京滋地区の業務代行店となることで自主独立の道を選びました。その後、当社と第一物産との出資、営業関係は、三井物産に継承され、2002 年（平成 14 年）まで当社は三井物産の 50% 出資の関係子会社として歩み続けてまいりました。自主独立の道を選んだことが、当社のまさしく原点でありました。

時代は戦後復興期から高度経済成長期へと移り、当社もこの流れに乗り、金属、機械、工具を核に業容を広げてまいりました。1958 年（昭和 33 年）、滋賀県彦根市に営業所を開設し 6 年の後、営業所を支店に昇格し、現在地に事務所、倉庫を新築いたしました。同地区の鋳物バルブメーカーのさまざまな需要に応えられる体制を整えていきました。金属部は、鋳物原料、鉄屑、鉄鋼製品を主な商品として、京滋地区周辺に大きく販路を広げていきました。機械部は、京都の大手ユーザーとその系列部品メーカーの現場のニーズを掴み、工作機械メーカーと連携して、より精度の高い工作機械を提案、販売していきました。

1968 年（昭和 43 年）には、現在地に念願の自社ビルを新築、本社事務所を移転いたしました。

設立から 20 数年が過ぎた 1973 年（昭和 48 年）、営業基盤を大きく変える一大転機が訪れました。

当社は、1950 年（昭和 25 年）京都機械工具（KTC）設立当初より同社製造工具の総発売元として、トヨタ自動車向け車載工具の販売を核に全国主要拠点に営業所を展開し、KTC 工具の販路を拡げてきました。全社売上高の 40%を占める最重要商品となっていました。この年、工具部は KTC 販売（株）として分離され、工具部の社員の多くが新会社に移籍しました。工具部の分離は、当時の経営の大転換を迫る一大事でありました。しかし、社員全員がこの危機感を共有し、新規顧客・商材を開拓し、業容を拡大していきました。ピンチをチャンスと捉え、経営の転換を図った一大転機でありました。

折りしも日本経済は戦後の復興・高度経済成長期から低成長期への大きな曲がり角を迎えていました。当社も素材の安定供給よりも需要家のニーズの発掘へと営業の軸足を移していきました。

新東工業の鋳造、表面処理機器の京滋地区代理店として三菱自動車京都製作所はじめ多くの需要家へそのサービスを広げていきました。工具部の分離後、トヨタ自動車/サービス技術部門の純正・紹介工具の指定メーカーとして、同社との共同開発でさまざまなニーズに適合した新商品の開発、販売を行ってきました。省力化、製造・物流コスト削減、労働環境改善など製造業のニーズに応えるために、ホイストクレーン、コンプレッサーなどの商材に取り組んでまいりました。

バブル景気の崩壊後、深刻な不況を経て、20 年に及ぶデフレ経済の時代に入りました。円高の進行により、輸出依存型の製造業の国内生産は頭打ちとなり、当社もこの大きな構造変化への対応に迫られることとなりました。

その象徴の一つが鋳物の開発輸入でありました。当初、品質、納期面で需要家の要請に応えることが難しく、不良品の山を築くなど著しい困難が伴いました。現地での技術指導、需要家への出荷前の最終手直しなど品質改善、納期順守、物流効率化の木目細かい努力を重ね、需要家の信用を着実に勝ち取ってまいりました。

21 世紀に入り、経済のグローバル化の荒波の中で、欧米機関投資家から株主価値の極大化、既存投資の見直しを迫られ、親会社の三井物産も厳しい事業改革を余儀なくされました。2002 年（平成 14 年）、三井物産が所有していた当社株式を買い戻して、同社から独立した会社となりました。株式の大半を現役の役員、社員が保有し、特定の大株主、オーナーが存在しない「社員の会社」になりました。大きな傘から外れるという不安はありましたが、金融機関、取引先の皆様のご理解、ご支援を得るとともに、社員全員が自主独立の精神と気概を持つことで、2008 年（平成 20 年）秋のリーマンショックを起因とする世界同時不況の荒波にもなんとか耐え忍び、乗り越えてまいりました。

ハードからソフト、アナログからデジタルへと世の中の流れは激しく動いております。IoT, AI, 3D やロボットなどがこれからのものづくりを大きく変える時代がやってまいりました。当社も激しい時代の変化に対し、常にアンテナを張り巡らし的確に対応していかなければなりません。ものづくりに貢献するパイプ役商社として、いつの時代にも取引先、社会から必要とされるように精進し、新たな変革に挑戦してまいります。

今日の70周年のお祝いは、80周年へのまさに出発点でもあります。我々役員・社員一同が新たな10年に向けてしっかりと地に足を着け、着実に前に進んでいくとの決意の表明の場でもあります。

ここにあらためまして皆様のご期待に添えますように一層の努力をいたす所存でございます。

今後とも倍旧のご支援、ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

これをもちまして開会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。